

令和4年9月司法試験合格 H.F.さん

2019年4月 筑波大学法科大学院未修コース入学
2022年3月 筑波大学法科大学院未修コース修了
2022年9月 司法試験合格

1. 入学のきっかけ

社会インフラ系の企業で事業部門に所属し、海外事業を担当してきました。海外勤務から帰任後、東京での勤務がしばらく続きそうだったので、その間に何か強みとなるスキルを身に付けたいと考えるようになりました。仕事で契約交渉の機会が多くありましたので、交渉で相手を説得するために緻密に物事を考えられるようになりたいと思っていました。そこで、この分野を強化するために司法試験を受験することを決めました。

2. 在学中の勉強方法

入学直後から、平日は就業時間後、学校のある茗荷谷へ急いで移動し、授業後に自習室に残って2時間程度過ごして日付が変わる頃に家に帰るというパターンの生活を繰り返しました。土曜日は、朝から学校へ行き、授業の合間や授業後は、学校内の図書館や自習室で勉強をしました。

毎日夜遅くまで大学院に残って勉強していたため、生活リズムに慣れるまでは、その反動で業務時間中に眠気を感じることもあるなど、身体が慣れない部分もありました。また、授業に間に合わせるために、平日の終業時前後は非常にバタバタすることが多かったです。残業をしていては授業に遅刻してしまうので、処理しきれなかった業務は、次の日早めに出社し、始業前には処理するようにしていました。

海外出張の際には、出張先のホテルや空港のラウンジからオンラインで授業に参加していました。

在学途中にコロナ禍となり、授業の大部分が、オンラインまたはオンデマンドで開講されるようになりました。オンラインやオンデマンドだと、その場で気軽に質問することが難しいなどの制約を感じることもありましたが、他方で、移動に要していた時間を節約できるようにもなりました。実務的な科目も加わり、次第に高度な内容となりましたが、時間的には少し余裕をもって授業に出席できるようになりました。

最終年次になると演習科目も始まりました。私は論文のアウトプットをそれまであまりせず、インプット中心に自己学習をしていたため、毎回、準備不足の感が否めませんでした。勉強が進んでいる方と比較して、書き負けていると感じる状況でした。そのようなときに、同期生が声をかけてくださり、起案力を強化する機会を得ました。これは、演習科目で起案した後に、自主的に集まってもう1通、起案してから帰宅するというものです。この繰り返しによって、少しずつですが、制限時間内に思考過程を文章にしていくトレーニングを積むことができるようになりました。まだまだ不十分な部分を感じながらも、試行錯誤を繰り返している過程の途中で、ロースクールの修了を迎えたような状況です。

3. 本試験直前

ロースクールのカリキュラムは実質的に12月まででしたので、それから試験までの4か月間は自主的な勉強の時間となりました。演習科目の後に起案に誘ってくれた同期生と、その間も週末に集まって起案をしました。起案後に不明だった部分などを議論して疑問を解消し、理解するということを繰り返しました。

司法試験の日程と同じように1日に複数の科目を解くと、例えば、手が痛くなって書くスピードがだんだん遅くなるとか、疲れて頭が働かなくなるなど、本番で起こりそうな身体に起こる変化もなるべく事前に体験しておくように努めました。また、この頃から、択一試験の対策にも本格的に取り組むようにしました。早めに時間を測って問題を解き、自分の現状を把握しました。そして、足りていない部分を中心に、択一過去問を少なくとも1日に20問は解くようにしました。

4. 司法試験について

私の場合、3月末頃に、試験直前と試験期間中の数日間、休暇を取りたい旨、会社に伝

えました。会社から休暇をもらった手前、1回で合格しなければならないという思いが強く、直前期は試験をやりきることへの不安とが入り混じった心理状態となっていました。その思いが空回りして、試験期間中はかなり力んでしまいました。ほとんど寝られず、体調が優れない中での受験となりました。途中、手ごたえが全く無い科目もあり、もう無理だとあきらめて途中で帰ろうかとも思った日もありました。しかし、先生、友人、家族から、たとえ手ごたえの無い科目があったとしても、その科目だけで合否が決まるものではないと励まされ、何とか受験しきることができました。

また、筑波大学法科大学院の出身者は、昼間に仕事をしている関係でどうしても夜型中心の勉強となってしまう。当日の試験時間に冷静に力を発揮できるように、試験前は朝型の生活に戻すなどして、体調面や精神面を整えておく必要があることも痛感しました。

5. 最後に

仕事や家庭との両立は、なかなか簡単にできることではないと思います。少しでも勉強に充てる時間を捻出するために、犠牲にしないといけない部分も出てきます。

しかし、筑波大学法科大学院は、そのような点を考慮しても、司法試験合格という成果を目指すならば、貴重な選択肢の一つとなるかと思います。先生方は、時間の限られている社会人でも理解することができるよう、講義時間の中で必要な情報を伝えられようと、最大限の工夫・準備されておられることを実感できる授業をしてくださいます。

また、質問等に対して、どの先生方からも丁寧かつ親身にお答えをいただけます。

さらに、実務家の先生方がご指導に当たられるチューターゼミなどの課外カリキュラムも充実しています。上手く活用できれば、授業と並行してアウトプットの実力を付けることができます。私は時間的制約から、授業と並行してゼミに参加することを十分にはできませんでしたが、試験直前には、個別型ゼミをアレンジいただき、手薄になっていた科目を集中的にご指導いただきました。

そして、司法試験を目指そうとする明確な目的意識を有した社会人が多く集まってきております。私は、演習科目を受け始めた段階で、自分の実力不足を痛感しており、修了後に合格できる実感をもてずにおりました。しかし、起案に誘ってもらい、自主ゼミを開いてディスカッションしたり、勉強方法を真似させてもらったりする中で、改善を図りながら勉強を継続できました。試験直前には弱気な気持ちもありましたが、同期生から「今年一緒に修習へ行こう」と声をかけてもらったことで前向きになれました。同じ目標に向かって取り組んだことで、合格を得ることができました。社会人になっても勉強したいとの思いをもたれる方にとって必要な環境が揃っています。

司法試験を検討される社会人の皆様、ぜひ筑波大学法科大学院へ入学されることをお勧めいたします。